



ミドルリーダーの挑戦
—前へ! 前へ!!

皆で授業を改善していく文化を私を育ててくれたこの地に根付かせたい

佐賀県吉野ヶ里町立三田川中学校 **吉田喜美子** 51歳



Middle Leader

よしだ・きみこ◎教職歴29年。鳥栖市立田代中学校などに勤務後、同校に赴任して3年目。担当教科は英語科。佐賀県の「スーパーティーチャー」として活躍。同校は2009年度から3年間、三田川小学校と外国語活動・教育に関する小中連携の研究開発学校の指定を受けた。

これまで私が歩いてきた道のり

「3年間は我慢しなさい」
「勉強を続けなさい」
背中を押した校長の言葉

教師になって最初の7年間、私は自分の出身中学校に勤めました。先輩の先生方は親身に教えてくださいましたが、授業もクラス経営もなかなかうまくいかず、何度も教師を辞めようと思いました。

隣のクラスでは授業が盛り上がっているのに、私が授業を行うクラスではしんと静まりかえっていて、生徒たちはちっとも楽しそうには見えません。ああ、自分は教師に向いていないのだと情けない顔をしてい

る私に、当時の校長は真顔で、「今、辞めてはいけません。3年間はしっかり勉強しなさい」とおっしゃったほどです。

2年目に、私は校長に連れられて、県中英研の会議に参加しました。学校にも尊敬できる先輩の先生がたくさんいましたが、学校の外には更にすごい先生が大勢おられ、生徒のために自主的に勉強されていることを知りました。だったら、経験のない私などにもっと勉強しなければいけない——そう実感しました。

実際、私は研修などさまざまな学びのチャンスを得たのだと思います。もちろん、勉強したからといって

でも、すぐに自分の授業がうまくいったわけではありません。相変わらず失敗も多く、「やっぱり私は教師に向いていない」と思うこともしばしばでした。でも、落ち込んでいる時に限って、生徒が「先生、今日の授業は楽しかった!」「良く分かったよ!」などと声を掛けてくれるんです。何度も生徒に救われたと思います。だからこそ、生徒に甘えられない、もっと上手に授業が出来るようになりたいと悩みました。本当に、教師としての私の成長はとても時間が掛かったと思います。

教師としての自分のあり方が見えてきたのは、2校目で数年が経ってからだだと思います。とはいえ「もう大丈夫」と言えるような自信はありませんでしたから、先輩に質問し、本を読み、授業参観をさせていただき、校外の勉強会に足を運びました。そんな私に、校長は「子どもたちのためになると信じるなら、何でも積極的に取り組みなさい。そして、自分自身も勉強を続けなさい」と言ってくれました。それは、初任校時の校長先生の言葉と共に、今も常に私を支え、よりどころとなる言葉となりました。

今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

教師と一緒に努力し、達成感を味わえる文化を佐賀県に根付かせたい

私は今もいろいろな先生の授業を見学しますが、「この先生の授業はすごい！」と感動することがたくさんあります。学級通信1つをとって「どうしたらこんなに楽しく作れるのか、ぜひ教えてほしい！」と思うほど、先生はそれぞれ得意分野をお持ちです。自分を向上させようと思ったら、勉強できることがまだまだたくさんあると思っています。

勉強して得たものを、教室に持ち帰って試してみると、生徒の反応が明らかに変わり、「先生、分かった!」「言えたよ! 書けたよ!」と言ってくれる瞬間があります。その時の生徒の笑顔は、教師としての自分の勉強のエネルギーになります。

私以外の先生方と一緒に、勉強していくことの大切さに気が付いたのは、現場を離れて県の教育センターに勤務していた2005年度、「辞書指導ワークショップ」の県内開催

に携わったことがきっかけです。生徒の主体的な家庭学習を促進させることを主な目的に、英和・和英辞書の効果的な活用法を生徒に身に付けさせる指導を、東京などから著名な先生方を招いて皆で学んだのです。

参加者からは「皆で勉強することがこんなに楽しいとは!」「うれしくて泣けてしまった研修は初めてです」といった言葉をたくさん聞くことができ、私も同じ目標を持つと一緒に努力することの楽しさと達成感を味わいました。

教師にとって、1人で黙々と勉強することは大切です。しかし、皆で一緒に勉強する時、そこにはエネルギーが1つにまとまっていく感動があります。また、実は皆、同じようなことに悩み、同じようなことを知りたかったということも分かります。だからこそ今、私は「皆で学んでいく文化」を大切にしたいと強く思っています。

06年度から毎年、吉野ヶ里町の協力を得て公共施設を借用し、英語指導に関する学習会を実施していま

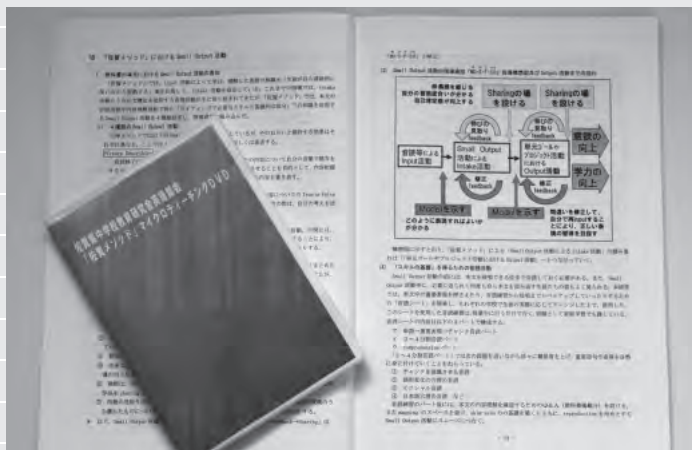
す。講師は全国からさまざまな方をお招きし、参加者も中学校や高校の先生のみならず、塾の先生、大学の先生や外国人講師、大学生と幅広くいます。自主的な会ですから、当日、机を並べたり、弁当の準備をしたりするのにも、県東部地区にある中学校の英語の先生方が率先し、皆で協力して行います。そうして、皆の力が1つになっっていく感動と、学んだこ

とを実践し、たくさんの生徒が笑顔になる感動を味わっています。皆で同じ方々を向き、一緒に楽しく学べる文化を、これからは佐賀県に根付かせていきたいですね。誰か1人が引張り上げるのではなく、皆で考え、全国に誇れる佐賀県の授業をつくり上げていく。それはきっと、これまで私が学んだ多くの先輩方への恩返しになるはずだと思います。

吉田先生たちの取り組み

『佐賀メソッド』

◎吉田先生がアドバイザーを務める佐賀県中学校教育研究会英語部会では「自ら発信する力・人とかがわり合う力を育てる」を目標に、①質問・応答する力、②説明する力、③要約する力、④コメントする力に焦点化した『佐賀メソッド』を研究している。全県的に英語の学習意欲が高まり、「書くこと」へのハードルが下がるなどの成果が見られ、全国から注目を集めている。



『佐賀メソッド』の2012年度の研究発表紀要。Small Output活動を軸としたBackward Designによるプロジェクト型学習がテーマだった